

藝文やまなし

題字 金井 昭堂（芸術文化協会参与）



平成22年3月号

Vol.22

CONTENTS

- ◆会長随想…………… 2
- ◆県民文化祭への参加状況…………… 3
- ◆各受賞者の紹介…………… 4～5
- ◆部門の紹介…………… 6
- ◆国民文化祭の紹介…………… 7
- ◆総会・研修会のお知らせ…………… 8
- ◆いんふおめーしょん…………… 8



「一人ひとりが主人公」

山梨県芸術文化協会会長 野口 英一



音楽家の小椋佳さんがプロデュースした県民ミュージカル「今様 膝栗毛」で幕を開けた「第24回国民文化祭しずおか2009」。十返舎一九作の「東海道中膝栗毛」をモチーフにした舞台は、静岡の伝統、風土、そして静岡県民の文化創造の息吹をダイナミックに表現する、というPR文句通り、素晴らしい内容でした。県民の中からオーディションで選ばれた出演者による、息の合ったダンスと力強い歌声。一人ひとりが“主役”として輝きを放っていました。会場全体

を大きな拍手が包み、私たち見ている側も一大イベントに参加しているという一体感を得ることができました。

昨年10月24、25の両日、前年開催の茨城に続いて静岡国文祭を視察してきました。開会式とオープニングフェスティバル、お茶をテーマにしたイベント会場などをめぐり、趣向を凝らした内容ともてなしの心に触れ、大変有意義な時間を過ごしました。16日間の期間中、36市町を会場に95のイベントが催され、出演者、作品応募者、来場者を合わせた総参加者は214万人に上ったそうです。

山梨国文祭が3年後に迫っています。議長役を務めた基本構想検討委員会は、大会の方針や事業構想などの議論を終え、2月に横内知事に報告書を提出したところです。報告書には武田信玄、富士山、ワイン、フルーツ、富士川舟運など「山梨らしさ」が感じられるキーワードを随所にちりばめました。今後は山梨県の実行委員会が市町村との連携を図りながら、こうしたキーワードを基にどのような事業、イベントを計画していくか具体的な検討を進めていきます。

山梨国文祭の成功に向け、山梨県芸術文化協会には中心的な役割が求められており、それに応えていきたいと考えています。「日本最大級の文化の祭典」ではありますが、肩肘を張ったり、背伸びをしたりする必要はありません。日々の生活の中で取り組んでいる文化芸術活動の延長線上に位置付け、ほかの関係団体と協力し合いながら、身の丈に合った等身大の大会としていけば良いと思います。それが「山梨らしさ」にもつながるのではないのでしょうか。

「文学で言う『珠玉の短編』のように小さな山梨県の凛としたきらめきを、薫り高い文化の風の中であそびながら、五感いっぱいに味わえるような祭典を目指す」。基本構想でうたったコンセプトです。四季を通じて山梨の文化に触れてもらうことで山梨の魅力を体感できるよう、秋の一時期だけでなく通年開催としました。春夏秋冬、季節ごとの風に吹かれながら、どんな発表が、どんな展示が、どんな舞台が考えられるでしょうか。県内外から集う大勢の参加者や観覧者の方々に、驚きや発見、感動、共感を抱いてもらえるよう、知恵を出し合いましょう。手を取り合って、「国民文化祭やまなし2013」という「珠玉の短編」を編んでいこうではありませんか。物語の主人公は、参加する皆さん一人ひとりです。





第9回やまなし県民文化祭への参加状況

●●● 総合舞台

3月7日（日）県民文化ホール大ホール

ファンタジー「かぐや姫」

本年度は、「竹取物語」としてなじみ深い昔物語をアレンジして創り上げられた舞台。

「今は昔、竹取の翁というものありけり…」のプロローグにはじまり、姫の成長から五人の貴公子の求愛。やがて帝が登場し月の都の姫と知り、天人達との戦いが繰り広げられ、ついには月の都の王が姫を連れ帰ることで帝は悲しみに暮れる結末を「喜」「怒」「哀」「楽」の四景で構成した。とりわけ「甲斐の国の繭」で織りなす天の羽衣、そして最も天に近い山「富士山」が物語において重要な意味を持ち、本県に縁深い演目として、音楽や踊りを交えて描き出された。

舞台部会各部門がそれぞれの活動、表現の粋を超えて力を集結し、総合舞台の名にふさわしい舞台を創り上げることができた。

各部門参加者は厳しい日程の中、それぞれの力を遺憾なく発揮し、来場者からの惜しみない拍手に笑顔で応えた。



●●● 総合展示

「総合展示」は10月7日（水）から11日（日）県民文化ホール会議室、および展示ロビーにおいて「美の饗宴～国民文化祭へのみち～」と題し、展示部会各部門が参加。県内の指導的立場にある方々の作品94点を一堂に会し開催した。金曜の午後と土曜の午前には、恒例になった茶道部門による呈茶と邦楽部門による箏の演奏も行われ、訪れた方々に優れた芸術文化の鑑賞とあわせて、心地よいひとときを提供することができた。

また、2月17日（水）から21日（日）まで同会場で行われた「合同展示」でも展示部会が中心となり、運営を担った。



呈茶・邦楽演奏



会場内の様子

●●● 部門別フェスティバル

4月の華道部門を皮切りに発表、舞台、展示の各部門それぞれが、特色ある事業を実施し、県民文化祭を盛り上げた。



各受賞者の紹介

平成 21 年度に山梨県芸術文化協会の関係者で「県政功績者表彰」「山梨県文化賞 文化功労者賞」「山梨県文化賞 特別賞」「山梨県文化賞 奨励賞」を受賞された方々を喜びの声とともにここにご紹介いたします。

県政功績者表彰

県政功績者表彰を受賞して

齊藤 静輝

昨年度の山梨県文化賞文化功労者賞受賞に引き続き、県政功績者（文化・教育）表彰も受賞し、喜びと云うより過去の生き様が走馬燈のごとく写し出されてきます。

昨年は國画会の永年会員として、第 83 回國画会展の授賞式の折、表彰を受けました（在 45 年永年会員）。

また、山梨県美術協会展が本年 7 月に開催されますが、こちらも永年会員表彰を受ける予定です（山梨美術協会在 50 年の会員）。

考えて振り返ってみると、絵筆を握り、50 数年を数えるわけで、あつと云う間の人生の出来事と云うか、「継続」の一言かと思います。色々な生き様の中で。印をつけるのではなく、句読点（、）の思いで、さらに見え隠れする私の形を追い求めて行きたいと願っております。

各種の受賞・表彰等、本当にありがたく感謝申し上げます。



山梨県文化賞 文化功労者賞

山梨県文化賞文化功労者賞を受賞して

依田 道彦

今年度の山梨県文化賞文化功労者賞を幸運にも受賞出来たことは、大きな喜びと同時に身の引き締まる思いです。私などが受賞したことは驚きであり、より相應しい方々が大勢いらっしゃるだろうと今も感じております。

この荣誉ある受賞は決して私達個人の業績によるものではなく、諸先輩方の業績の上に積み重ねられてきたことによるものであり、また、協力し合ってきた仲間達との共同活動で得られたものであることと感謝しております。

私達は高齢になりつつあり、今後の活動には限りがありますが、先輩方から私達に伝授されてきたことを、これから若い世代に引き継いでゆくべき使命を強く感じております。

今回の受賞に際し、私達は老骨に鞭打ち、そのような決意で今後も頑張りたいと願っておりますので、ご支援の程を宜しくお願い申し上げます。



山梨県文化賞 特別賞

喜びにかえて

廣瀬 直瀬（直人）

この度、小生の句集「風の空」の蛇笏賞受賞にあたって県文化賞特別賞の表彰に与り望外のこととして喜んでおります。

今回の「風の空」は私の第六句集です。平成十四年より二十年までの七年間の作品を収録しました。句集の“あとがき”にも、「私の人生にとって最も深く重い心で過ぎてきた日々であった。」と書きましたが、師の飯田龍太先生を始め、親しかった何人かの友人との永別の悲しみを味わった歳月でした。と同時に、生まれ育った山梨の風土との関わりも年毎に深くなってくるようです。

これからもこの郷土に心を寄せて作句に努めたいと考えています。そのためにも「白露」の仲間に限らず、俳句を好きな人々との交流を大切にしていきたいと思うこのごろです。



山梨県文化賞 奨励賞

師のお教え

関戸 公子

五七五七七のリズムに乗った美しい日本語、この短歌の世界に魅せられていつしか六十年、いや七十年を関しました。とは申しましてその約半数は、短歌の何かも追求することなく、空白な時間を過ごしておりました。

その後、短歌結社や地域の先輩のご指導、また県民文化祭文学部門への携わりなど、各方面からのご支援でこの道に目覚めたように思います。

更に短歌と共に華道、書道など興味のあった部門で出会った山梨市文化協会の方々との暖かい交流により育んでいただいた、その結果の受賞と深く感謝しております。格別の功績もない私が、思いもよらぬ受賞に戸惑いつつも、短歌の師の「継続は到達なり」のお教えをモットーに今後も一筋に歩み続けたいと思います。



山梨県文化賞 奨励賞

山梨県文化賞奨励賞を受賞して

武川 民子（宗星）

この度、山梨県文化賞奨励賞をいただき、身に余る光栄と心から感謝申し上げます。

茶道は、日本の気候、風土に育まれた芸術文化だと思います。

私はその心を大切に今日まで半世紀余に亘って歩んでまいりました。

毎年くり上げられるやまなし県民文化祭に参加し、茶道文化の交流・普及に努めてまいりました。

一碗の茶を喫することによって日本の伝統の美や自然の理をその中に見出し、心相む平和な世相ができたらと願う日々でございます。

今後は、この受賞を励みに、さらなる茶道の修業に務め、山梨の文化向上に微力を尽くしたく存じます。



山梨県文化賞 奨励賞

陶 すえ

三井 康夫（康生）

澄み切った冬の空気に触れると、この韭崎に修行先から移り住んだ時を思い出します。

雪の残る寒い日でした。とても美しい所で、これからへの不安と希望の入り交じる気持ちでいっぱい、まだ若い私でした。

来る日も来る日も轆轤を引き続け、多くの人々に支えられ、早や、二十九年の歳月が流れました。

日々、造り続けることにより、深く「自身を磨け」。師の教えがここにあるのですね。

四十九で亡くなった師と、ここまで導いていただいた知人に、深く感謝を申し上げます。

「見えてきた」ところからまた、新たな旅が始まるのでしょうか。何処まで行っても終わりの無い旅です。

与えられた「業」として「終わる迄」造り続ける毎日であります様に、願うばかりです。



山梨県文化賞 奨励賞

楽しむ書の普及をめざし

鈴木 章安（石蹤）

この度は、山梨県文化賞奨励賞の榮譽に浴することができ、ご推薦いただいた関係各位をはじめ、今日までご指導ご支援くださった方々に、心より感謝を申し上げます。

子どもの頃より書を書くことが好きで続けて参りましたが、歳を重ねると共に責任ある立場を与えられ、それが今回の受賞に繋がったものと思っています。

第52回山梨県芸術祭から専門委員として運営のお手伝いをさせていただいており、この間、山梨県書道会の事務局長や副理事長をも務めさせていただき、今日に至っております。

私の書のモットーは「書は楽しく」ということです。30年に及ぶ山梨県警察学校書道講師としての活動や、山梨文化学園、そして、私の塾生をはじめ多くの方々に「楽しむ書」の普及をめざし、これからも努力して参ります。それが今回の受賞に対する感謝の気持ちだと考えています。



山梨県文化賞 奨励賞

山梨県文化賞奨励賞を受賞して

大柴 力

この度は、山梨県文化賞奨励賞の榮譽に浴して光栄に思います。有難うございました。このことは、陰で支えてくれた多くの写友や家族に依るもの大きいと思います。

写真を始めたのは、昭和39年、日立製作所で社内報の写真を担当したのがきっかけでした。

昭和55年、韭崎市文化協会写真部発足に加わると共に、山梨写真作家クラブに入会し、撮影会、写真展、月例会など写真技術の向上に努めております。

山梨には富士山をはじめ南アルプス、八ヶ岳など四季折々の美、先祖が残し伝えた祭りや民族芸能、文化財等、世界に誇れる悠久の美があります。これらを写真として形に残し、子供たちに伝えたり写真を通じての芸術文化交流が図られるよう、受賞を機に微力ではありますが、尽力いたしたいと思います。



山梨県文化賞 奨励賞

山梨県文化賞奨励賞を受賞して

深山記ね子（華照）

この度、華道協会ご推薦の下、山梨県文化賞奨励賞をいただき、身に余る光栄であり、責任の重さを感じております。先代が残された技、形を継承する立場になり、未熟ながら華道協会へ入会、二十余年、身近な友との研究会、高校生達とのふれあい等が大きな力となり、また、市町村等の文化活動も続けてまいりました。

今回の受賞も、これらの方々との華への拘りであり、支えてくださった地域の方々やお弟子の方々と共にいただいた賞であるのではと、一同大きな喜びを感じております。

これを機に、華道との原点を見つめ、微力ですが、自己研鑽を積み、お花の美しさ、活ける楽しさを心の糧にと、折りにふれお話ししてまいります。

会長様始め、諸先生方のお力添えに心より感謝し、お礼申し上げます。



山梨県文化賞 奨励賞

山梨県文化賞奨励賞を受賞して

竹原久美子

この度は「山梨県文化賞奨励賞」をいただき、光栄と感謝申し上げます。

私は結婚を機に山梨県に参りました。その後、主人の音楽好きの後輩達と「甲府室内合奏団」を創り、団員と力を合わせて演奏活動を始めてから今年で35周年を迎えます。

私がこの地で音楽活動を続けてこられたのも、団員はもとより、演奏の機会を与えてくださった音楽仲間の皆様、友人達、また、芸文協の会員として、小学校や養護学校での演奏を通して子ども達から感動を与えてもらったことなど、すべてが私自身の成長へとつながり、今回の受賞となったと思いますと、私を支えてくださったすべての皆様に心から御礼申し上げます。

これからは若い人達へ力を注ぎながら、山梨県の音楽文化が更に発展しますよう、願っております。



山梨県文化賞 奨励賞

箏と私

田中かほる

私がお箏を習い始めたのは8歳の頃でした。七人兄弟の末っ子の私は兄や姉が得意の分野で頑張っているのを見て、私もお箏が上手に弾けるようになることが一番の夢でした。

それから10年後、東京芸術大学邦楽科に入学して、宮城道雄先生をはじめ、多くの先生方にご指導いただけたことは、私にとって今も大切な宝物です。

そして、卒業後は指導者の立場になり、今年で50年になります。平成になり、文部科学省の指導要領により小中学生に日本の楽器を体験することが義務づけられました。私も及ばずながらその指導をさせていただいております。また、県民文化祭総合舞台の邦楽部門としての参加も何回かさせていただきましたが、日本の楽器の響きを大勢の方に聴いていただける良い機会かと思っております。

この度の受賞に際しましては多くの方々のご支援の賜と感謝の気持ちでいっぱいです。これからも尚一層精進を重ね、日本音楽の発展の為、努力してまいりたいと思います。



山梨県文化賞 奨励賞

受賞のごあいさつ

藤原 衣子（花柳彩三郎）

栄えある受賞の通知をいただきました時、母の顔が過ぎりました。

元気でいてくれたのなら、どんなにか喜んでくれたことでしょう。

新聞を見せたら「お母さんも寝てはられない、お赤飯でも蒸かさなきゃ!!」と、半身麻痺の身体を動かそうとして一瞬は理解した様です。

生きていくのだからそれで満足しなければと思い直しております。

私が6歳の時、日本舞踊の種を一粒まいてくれたのが母でした。お陰でこの道に進むことができました。

それから、師の厳しく暖かい教えの下、温かく見守り、適切なアドバイスをくださった諸先輩や友人たち、深い縁で結ばれた門下生たち、家族の助け、たくさんの力に支えられ、この舞踊の道をひたすら歩んできたことができました。

課題は山積みですが、いただきました賞の重みを胸に、古典舞踊の伝承と次代の担い手の育成、自分自身の表現技術の向上めざし、益々精進いたす所存でございます。

今後ともご支援の程、お願い申し上げます。





部門の紹介

演劇部門の紹介

演劇部門長 河野 通方

現在、県内で活動しているアマチュア劇団又は個人（プロデュースシステム）での演劇公演は、年10公演が行われています。そうした中で高校の演劇祭や学生サークルとしての公演も行われています。また、公的施設による自主公演や実力のある講師を招いてのワークショップも行われています。しかし、演劇活動が最も盛んであったころの中心的な存在であった職場演劇は現在では皆無となっています。時代が許さないのでしょうか。趣味が多様化してきているのでしょうか。それもあるでしょうが、仕事に追われ芝居をしているそんな時間が無い、いや、いつリストラにあうか先が見えない生活の厳しい状況に直面しているのです。それが現実の姿ではないのでしょうか。だから、素晴らしい芸術文化に触れたいという思いにつながっていくのだと私は考えています。

そうした状況の中で県芸文協には3劇団と個人会員1名が加盟しています。

6月27日・28日の両日、いちのみや桃の里ふれあい文化館で劇団やまなみが「ベッカンコおに」（写真上）を上演しました。この物語は、鬼がまだ神様のお使いだった頃、笛吹峠にベッカンコと呼ばれる失敗ばかりしている鬼が、ひょんなことから目の見えぬ娘ゆきと出会い、心を通わせていく物語です。終幕でゆきの愛するベッカンコが鬼というだけで無残に殺され、ゆき自身も鬼に変化しながら人間の心の奥に住む魔物とは何かを訴えています。

7月19日には県立文学館講堂で劇団創作座が井上ひさしの「父と暮らせば」（写真中）を上演しました。この芝居は、原爆が投下された昭和20年から3年を経過した7月の広島市を舞台にしています。創作座は「戦後64年、いまだにこの問題が解決されず、原爆認知訴訟に至っては政府の18連続敗訴。いかに国が国民の方を向いていないか、そして、戦争による多くの被害者、国民の多くの深い悲しみと曲げられた人生を歩いていることなどを、もう一度見つめ直す機会として上演します」と、メッセージを発しています。



9月26日・27日の両日、甲斐市長塚特設会場でKofu舞台の会＋劇団B－BLACK提携公演で「千年の孤独」（写真下）を上演しました。物語の内容は以下のとおりです。あげはという名前の女はガラスケースに蝶を閉じ込め、日課のようにガラスケースを磨きながら、自分は住んでいるこの街から一歩も出ようとしない。そんなあげはと一緒に暮らすカケルは一攫千金を夢見ている。ある日、カケルはあげはに思いを寄せるヒカルに金の掘削資金代わりにあげはを売ってしまう…1988年新宿梁山泊によって上演され、国内外で高い評価を得た鄭義信氏の作品で第17回テアトロ賞を受賞しています。

演劇を始め、発表部門で一番苦労するのは、会場が確保できないことです。希望する日時と高額な料金、会場付のスタッフの問題。そして、手頃なキャパ。理想では100人から200人ぐらいの会場。もちろん舞台設備は大ホール並で。そんなホールがほしいと思います。

話は変わりますが、昨年11月、行政刷新会議の「事業仕分け」が文化予算の中心部分に「圧倒的な縮減」という結論をくだしたのに対して、広範な芸術家や芸術団体が一斉に批判と危惧の声をあげました。このことが世論を動かし、2010年度の文化庁予算の政府原案は09年度よりプラスとなりました。しかし、芸術・文化団体への支援は削減路線がうちだされています。

さて、近づいてきている国民文化祭を意識したとき、地元で地域でがんばっている文化団体や芸術家たちへの援助と支援が今ほど大切な時はないと思ってやみません。



「国民文化祭・山梨大会」の基本構想(案)が知事に報告されました

平成 25 年に山梨県において開催される日本最大級の文化イベント「国民文化祭」に向けて、県では平成 20 年 6 月に「国民文化祭基本構想検討委員会」（会長：野口英一芸文協会会長）を設置し、開催に当たっての基本的な考え方や名称、テーマ、会期、事業構想など、大会の骨格となる「基本構想」を検討してきました。

平成 22 年 1 月 29 日に開催された第 5 回検討委員会において基本構想（案）が承認され、2 月 9 日に野口会長から横内知事に報告されました。

報告には野口会長のほか、検討委員会から鶴田一杏副会長、萩原三雄基本構想起草委員長が同席しました。

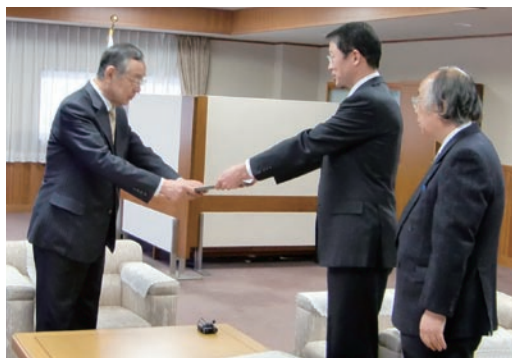
野口会長からは、「平成 20 年 6 月に知事から委嘱を受け、2 年弱にわたり、延べ 20 時間の基本構想起草委員会での検討、計 5 回の検討委員会での議論を重ね、基本構想（案）がまとまった」「知事もおっしゃっている『山梨らしさ』の魅力を多くの方に満喫していただくため、これまでの国民文化祭の歴史上初の試みとなる一年を通じた開催を提案し、『文化の風とあそぶ～みつめる・こえる・つなげる』というテーマのもと、4 つの季節を使って繰り広げられるさまざまなイベントを通して、山梨をもう一度見つめなおし、山梨の誇るべき自然や伝統・文化行事を県内外の方に楽しんでいただこうと考えた」などの報告がされました。

また、鶴田副会長からは「国民文化祭の開催は、忘れかけていた身近な文化を掘り起こし地域の文化力の底上げをする絶好の機会である」「本県の通年型の開催方法が、今後国民文化祭を開催する県の参考となるように、大会の成功に向けて各地域の文化協会の会員が核となり力を合わせていきたい」との今後の取り組みのポイントについても併せて報告されました。

さらに、萩原起草委員長からは「1 月の道祖神祭り、4 月の歴史関連の祭典、8 月の火祭りなど、それぞれの季節の特色あるイベントを核として、メインとなる秋の「グランドステージ」に向けて事業展開をしていこうと考えた」「1 年を通じた会期を活かして、各種の体験型の事業を年間を通じて開催することができるのではないか」と事業構想についての説明がありました。

この報告を受けて横内知事からは、「平成 20 年度から 2 カ年に渡り密度の濃い検討をしていただき心より感謝申し上げます。1 年間を通じての開催という初の試みを提案いただいたが、四季折々のそれぞれの地域でさまざまな文化イベントが行われることは、本県の文化水準の向上はもちろんのこと、観光振興のためにもたいへん意義のあることである」「来年度には県庁にも準備室を設置し、各市町村においても事業構想の検討を始めるなど、いよいよ具体的に動き出すことになる。皆様には引き続きご協力をお願いしたい」などのお話がありました。

今後、本県の基本構想（案）は文化庁の国民文化祭実行委員会で審議され承認をいただいたのち、今後設置される予定の県・市町村の実行委員会などにおいて、具体的な事業計画策定の際に、本県の国民文化祭の青写真として活用される予定です。



「第 25 国民文化祭・おokayama 2010」が開催されます

本年は、岡山県にて 10 月 30 日から 11 月 7 日までの会期で「第 25 回国民文化祭・おokayama 2010」（愛称：「あつ晴れ！おokayama 国文祭」）が開催され、当協会からも多くの部門から参加を予定しています。平成 25 年の本県での国民文化祭の開催に向けて、引き続き会員の皆さまの積極的な視察をお願いいたします。

◇「第 25 回国民文化祭・おokayama 2010」

ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/kokubunsai2010/>

総会・会員研修会のお知らせ

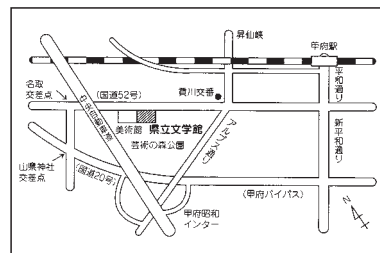
日時 4月24日(土) 総会:午後1時30分～、会員研修会:午後2時～
場所 山梨県立文学館・講堂

甲府市貢川一丁目5-35 TEL 055-235-8080

総会 ・平成21年度 事業報告及び決算について
 ・平成22年度 事業計画及び予算案について

会員研修会

今回は、平成25年に本県で開催される国民文化祭の基本構想検討委員会起草委員長の萩原三雄氏(帝京大学山梨文化財研究所所長)を招いて開催します。演題を「国民文化祭基本構想策定に関わって」として、お話をさせていただきます。多くの会員の皆様のご来場をお待ちしております。



～プロフィール～

萩原 三雄 (はぎはら みつお)

昭和22年山梨県に生まれる。早稲田大学第一法学部卒業。帝京大学山梨文化財研究所研究部長を経て、現在同所長。この間、中国科学技術大学客員研究員や東京大学・静岡大学などで非常勤講師を歴任している。現在は、都留文科大学兼任講師。そのほか、山梨県文化財保護審議会委員や甲府城跡櫓門復元検討委員会委員長、佐渡の世界遺産に関する専門部会の部会長や高知城の整備計画推進委員会委員などの公職を務めている。

専門は考古学。主な著書等に『中世の城と考古学』『戦国時代の考古学』『定本山梨県の城』『定本武田信玄』『定本富士川』などがある。

国民文化祭基本構想検討委員会では起草委員長を務めている。



◇問い合わせ先 山梨県芸術文化協会事務局(県生涯学習文化課内) Tel 055-223-1797 Fax 055-223-1322

いんぷおめーしょん

会員活動紹介

写真部門

- 第29回女性カメラクラブ「虹の会」会員展
 日時:平成22年5月27日(水)～6月2日(木)
 会場:山梨県立美術館ギャラリーC
- 第9回山梨県写真団体連絡協議会合同展
 日時:平成22年6月17日(水)～23日(水)
 会場:山梨県立美術館ギャラリーA
 内容:連絡協議会加盟31写真クラブが展覧する約150点の写真展示
- 第33回フォトクラブリターン写真展
 日時:平成22年7月29日(水)～8月4日(水)
 会場:山梨県立美術館ギャラリーB
- 山梨フォトクラブ第27回写真展
 日時:平成22年8月19日(水)～25日(水)
 会場:山梨県立美術館ギャラリーB
- 第22回全日本写真連盟甲府支部写真展
 日時:平成22年9月2日(水)～8日(水)
 会場:山梨県立美術館ギャラリーC
- フォトアート・フリークス&フォトクラブ東悠合同会
 日時:平成22年10月25日(水)～31日(水)
 会場:山梨県立美術館ギャラリーC

洋舞部門

- ユミクラシックバレエスタジオ創立25周年記念第13回発表会
 日時:平成22年7月24日(土)
 場所:山梨県民文化ホール(大ホール)
 内容:13時開演:「ジュニアコンサート(入場無料)」ーパ・ド・ドゥ、
 「パキータ」
 16時30分開演:小作品集、「ドン・キホーテ」全幕(坂本登喜彦振付、ゲスト:今井智也、三木雄馬ほか。有料・一階席指定)※5年ぶりの全幕物挑戦です。ぜひご覧ください。

美術部門

- 第73回山梨美術協会展
 日時:平成22年7月3日(土)～14日(水)
 会場:山梨県立美術館県民ギャラリーABC
 ただし、5日(水)と12日(水)は休館
 搬入日:7月1日(水) 審査・展示日:2日(木)
 内容:会員・会友145人、並びに、公募入選作品約130点の、合わせて約250点を展示

華道部門

- 第20回 山梨県華道協会展
 会期:平成22年4月16日(金)～21日(水) 午前10時～午後7時
 開催形式:3次展(第1次展・第2次展・第3次展)
 場所:甲府岡島百貨店7階催事場(同会場で、いけばな体験教室も実施)
 参加団体:山梨県華道協会加盟20流派
 出品者数:流派代表者20名・協会登録会員選抜306名 計326名
- 平成22年度 山梨県華道協会定例総会
 日時:平成22年4月18日(日) 午前10時
 会場:甲府岡島ローヤル会館8階

民謡民舞部門

- 山梨県舞踊研究会 第15回舞踊発表大会
 日時:平成22年4月25日(日) 午前10時30分開演
 場所:山梨県民文化ホール(小ホール)

吟剣詩舞部門

- 山梨県吟剣詩舞道総連盟
 ■第60回全国吟剣詩舞コンクール山梨県大会
 日時:平成22年4月25日(日) 10時～16時30分
 会場:山梨県立文学館講堂
 内容:合吟・剣舞・詩舞・独吟(剣詩舞と独吟は、幼少青年・一般一部・二部・三部)
- 山梨県詩吟剣詩舞総連盟
 ■詩吟剣詩舞コンクール山梨県大会
 日時:平成21年10月16日(土) 10:00～(予定)
 場所:山梨県立文学館講堂(予定)

音楽部門

- 山梨交響楽団第37回定期演奏会
 日時:平成22年6月27日(日) 13:30開場 14:00開演
 場所:山梨県民文化ホール・大ホール
 指揮:前田 淳
 独奏:崎村潤子(ツインバロン)
 曲目:ベートーヴェン/序曲「レオノール」第3番、コダーイ/組曲「ハーリ・ヤーノシュ」、シベリウス/交響曲第2番
 入場料:一般1,500円 高校生以下1,000円